

2024 年度 医学部教育センター一年報



※パースはイメージです。今後変更になる可能性があります

目次

あいさつ	
医学部長	2
医学部教育センター長	3
委員会報告	
教育センター会議	4
教育センターミーティング	5
教務委員会	7
カリキュラム委員会	10
臨床実習委員会	12
医学部 FD 委員会	15
地域医療教育委員会	16
学生生活委員会	18
学修支援委員会	21
医学基盤教育委員会	26
医学部 IR 委員会	27
教育関連学術業績	
論文	29
著書	30
学会発表	31
講演・ワークショップ	36
その他	37
編集後記	38

医学部長あいさつ

近畿大学医学部 学部長
ゲノム生物学 主任教授
西尾 和人

令和 2 年 4 月に医学部教育センターが開設され、5 年が経過しました。本センターには、教育プログラム開発部門、臨床実習部門、学生評価部門、学修支援部門、地域医療教育部門、教員育成部門、医学基盤教育部門、学生生活部門が設置されています。梶センター長の指揮のもと、当センターの専任教員が中心となり、医学部の教員と共に精力的に活動いただき、どの部門も当医学部の教育の質の保証および継続的改善に欠くことのできない存在となっています。

近年の医学教育の改革の流れを受け、本センターは学修評価の向上、臨床実習の充実、学修支援の強化に向けた取り組みを積極的に推進してまいりました。これにより、CBT や Pre-CC OSCE の公的化への対応、CC-EPOC の導入など、多くの新しい取り組みが実現しました。また、統一試験の導入、教育アウトカムの評価、ルーブリックを用いた客観的評価の強化、基本的な診療科における mini-CEX の実施など、医学教育の質の向上に向けた施策が次々と展開されています。これらの改革が実を結び、教育の充実とともに、学生の学びの質も向上しつつあります。

令和 6 年 9 月には、分野別認証の 2 巡目受審が実施され、多くの教育改革を実施した上で対応されました。これらの実行にあたっては、教育センターの先生方が中心となり、実行案を立案し、また実行に際しても中心的な役割を担っていただきました。教育センターの活動内容が本紀要にまとめられていますので、本紀要をお読みいただくことで、教育センターの目的や活動内容をより深くご理解いただけることと思います。

このように、教育の質の向上のための改革を進めていますが、今後も継続的な改善が求められます。これに伴い、教育センターの教員だけでなく、医学部全体の教員の負担が増えてくることが予想されます。しかし、教育は医学部における重要な責務であり、教育活動が適切に評価されるよう、医学部の制度改革も引き続き進めてまいります。

また近年の医学教育では、ICT 技術を活用した学修支援の強化が求められています。新キャンパス移転後も ICT 技術をより活用する環境が整えられることが期待されています。本学では、e-ポートフォリオの本格導入に向けた準備を進めるとともに、オンライン教育や遠隔実習の拡充を図り、より柔軟かつ効果的な教育環境の構築を目指しています。さらに、地域医療教育の充実にも注力し、学生が地域医療に関心を持ち、実際の臨床現場での経験を積むことができる機会を提供しています。

最後になりますが、当医学部の教育に携わっている教育センターの先生方をはじめ、他の教員の先生方、教育センター・学務課を中心とする事務職員の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご尽力によって、近畿大学医学部の教育は着実に発展を遂げております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

医学部教育センター長あいさつ

近畿大学医学部 教育センター長
再生機能医学 主任教授
梶 博史

医学部教育センターが設置されてからまもなく5年となります。今年度はIR部門専任教員の藤田先生が退職され、新たに富士先生がIR部門専任教員として、医学部IR委員会委員長の今野教授のもとで、医学部IR委員会の業務を担当していただくことになりました。また、医学部長が松村教授から西尾教授に代わり、令和6年10月から、カリキュラム委員長は、有馬教授から前田教授に交代となりましたが、専任で教育センター副センター長を担当いただいている三井教授以外のもう一名の教育センター副センター長は、予防医学・行動科学教室の東教授に兼任でご担当いただくことになりました。基盤教育部門を除いた専任教員は引き続き5名の体制で、活発に活動しています。

医学部の教育は、国際認証基準と我が国の大学基準を満たす必要があります。近畿大学医学部は、令和6年9月に、日本医学教育評価機構(JACME)による2巡目の審査を受審しました。医学部教育センターには、委員会組織として、教務委員会、カリキュラム委員会、学生生活委員会、臨床実習委員会、学修支援委員会、FD委員会、地域医療教育委員会、基盤教育委員会が含まれます。JACME 1巡目受審の準備の際は、医学教育自己点検・評価委員会が組織されてその委員会が中心となって、自己点検評価報告書が作成されました。その委員会は、カリキュラム点検・評価委員会に改変され、その後、医学部自己・点検評価委員会と併合されるに至っています。それに対して今回の2巡目は、JACME受審対応を、医学部教育センターが中心となって進めることになりました。JACME受審に向けての準備、実地調査にあたっては、すべての教員、職員、学生の皆さんにお世話になりました。自己点検評価書の準備については令和6年1月末のキックオフ会議後、6月の提出に向けて、各領域をそれぞれの該当委員長を中心にご対応いただきました。実地調査ではJACME評価委員の先生から、いくつかの改善点をご指摘いただいたので、これからそれらの指摘事項に対応した教育カリキュラムの改善策を検討していきたいと考えています。医学部教育センターは、今後も医学教育改善のために引き続き、講座横断的に頑張っ活動していきたいと思っています。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。

[委員会報告]

教育センター会議

医学部教育センター長
再生機能医学 主任教授
梶 博史

医学部教育センター会議は、教育センターの各部門長と教育センター専任教員（医学基盤教育部門を除く）が参加する会議で、年に2回実施しています。医学部教育センターの教学系委員会で審議する事前検討として、医学教育上の重要な問題点について検討しています。今年度は、9月にJACMEの2巡目受審を受けたため、それに関連した検討を中心として、次の2回開催されました。

第1回 医学部教育センター会議

日時：令和6年4月4日（木）17:30～

場所：PET棟3階大会議室

議事：

1. 第118回医師国家試験の総括について
2. 教育アウトカム評価の妥当性解析結果について
3. JACME 2巡目受審実地評価参加者調査について
4. JACME 2巡目受審実地評価に向けての今後の流れについて
5. 自己点検評価書作成過程の疑問点について
6. 2024年度OSCEについて
7. 標準模擬患者認定状況と大学間交流の開始について

第2回 医学部教育センター会議

日時：令和6年10月22日（火）18:00～

場所：救急災害棟5階研修室

議事：

1. JACME 指摘事項への対応について
2. 共用試験公的化に伴うCBT成績不良への対応について
3. 令和4年度モデルコアカリキュラムに基づいた臨床実習（2026（令和8）年11月開始）について
4. 串本地域実習の今後について
5. 臨床実習におけるアンプロ学生の処遇について

[委員会報告]

教育センターミーティング

医学部教育センター長
再生機能医学 主任教授
梶 博史

医学部教育センター教員（医学基盤教育部門を除く）における医学教育上の重要な情報の共有と、教育上の課題の検討、教員間のコミュニケーションを促進するために、毎月定例教授会の翌日夕方に教育センターミーティングを開催しています。本年度は下記の日程で開催しました。

第 1 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 4 月 18 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 2 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 5 月 16 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 3 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 6 月 20 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 4 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 7 月 18 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 5 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 9 月 19 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 6 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 10 月 17 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 7 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 11 月 21 日 (木) 17:00～

場所：Zoom 会議

第 8 回 医学部教育センターミーティング

日時：令和 6 年 12 月 19 日 (木) 17:00～

場所: Zoom 会議

第 9 回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和 7 年 1 月 17 日 (木) 17:00～

場所: Zoom 会議

第 10 回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和 7 年 2 月 20 日 (木) 17:00～

場所: Zoom 会議

第 11 回 医学部教育センターミーティング

日時: 令和 7 年 3 月 13 日 (木) 17:00～

場所: Zoom 会議

[委員会報告]

教務委員会

教務委員長

再生機能医学 主任教授

梶 博史

月に1回、定例教授会の前の週に開催しています。医師国家試験結果の総括、総合試験、関西公立私立共通試験、CBT、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE の実施および合否判定、各学年の進級判定、卒業判定、各種試験の作問についての検討および教授会への提案を行いました。また、令和6年度9月のJACME2巡目受審に関連した議題について検討しました。医学部履修要項の修正を行いました。さらに、医学部 IR 委員会、学修支援委員会、OSCE 運営委員会の報告がありました。以下に、試験判定や作問以外の11回の委員会議題を示します。

第1回 教務委員会

日時: 令和6年4月10日(水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 第118回医師国家試験の総括
2. 教育アウトカム評価の妥当性解析結果
3. 疑義申立てと回答のまとめ
4. 令和6年度教務連絡窓口担当について
5. e-ポートフォリオの運用開始と入力依頼について
6. JACME2巡目受審実地評価参加者調査について
7. 臨床実習での"現場の実践に基づく評価"
(Workplace-Based Assessment: WpBA) 実施調査

第2回 教務委員会

日時: 令和6年5月8日(水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 試験問題相互確認のまとめ
2. 教育アウトカム評価における自己評価と他者評価の関連分析結果
3. OSCE 運営・SP 養成について
4. 臨床実習レビュー中の学生海外派遣について

第3回 教務委員会

日時: 令和6年6月12日(水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 臨床各論における統合試験の実施状況について
2. 学修支援委員会報告
3. OSCE 運営委員会報告

第 4 回 教務委員会

日時: 令和 6 年 7 月 10 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. e-ポートフォリオの現況について
2. JACME 実地調査の準備状況について
3. 学修支援委員会報告

第 5 回 教務委員会

日時: 令和 6 年 9 月 4 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 臨床実習串本実習の特別措置について

第 6 回 教務委員会

日時: 令和 6 年 10 月 9 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和 7 年度教務日程について
2. 共用試験成績不振に対する 4 学年留年生への対応について
3. 串本地域実習の再開について

第 7 回 教務委員会

日時: 令和 6 年 11 月 13 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. CBT 成績不振対策について
2. JACME 実地調査指摘事項について

第 8 回 教務委員会

日時: 令和 6 年 12 月 11 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 教学 IR 解析計画について
2. OSCE 運営委員会報告

第 9 回 教務委員会

日時: 令和 7 年 1 月 8 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事: 試験関係

第 10 回 教務委員会

日時: 令和 7 年 2 月 12 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 学長賞・学部長賞について
2. 試験問題相互確認について
3. 3 学年臨床各論Ⅰ 試験单元名称変更について
4. IFMSA 留学における講義・実習代替措置について
5. 学修支援委員会報告

第 11 回 教務委員会

日時: 令和 7 年 3 月 7 日 (金) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 医学部諸規程および進級基準について
2. 試験結果報告・成績報告について
3. 入学試験および学生教育における利益相反 (COI) 管理について
4. OSCE 運営委員会報告
5. 臨床実習委員会報告

[委員会報告]

カリキュラム委員会

カリキュラム委員長

内分泌・代謝・糖尿病内科学 主任教授

前田 法一

令和 6 年度はコロナ禍前の従前通りの対面での講義・実習スタイルに戻り、学生と教官との距離感が近くなり、お互いに学修の面でも意思疎通が図りやすくなっているものと思われます。

本年度は、日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価として、9 月 10 日から 13 日までの 4 日間にわたり、2 回目の受審を受けました。前回の受審から 7 年間に及ぶカリキュラム改革に多くの教官および学生が参画し、多岐にわたり改善がなされてきました。たとえば、医学教育モデル・コア・カリキュラムで採用された 37 の症候・病態からの臨床推論力を教育する目的で、診療科別ではなく臨床各論（ユニット）ベースの授業計画を作成し実施しております。同一症候（病態）をユニット内の複数の診療科が水平統合を果たしつつ、アクティブラーニングの要素を取り入れる教育プログラムを構築し、令和 5 年度から開始いたしました。また、令和 5 年度から労働法教育講義を開始し、令和 6 年度から地域医療講義を開始するなどカリキュラム改革を進めてきました。

一方、JACME からは、改善すべき点・改善の余地が残されている点についても指摘されております。年末には、カリキュラム改善に関するアンケート調査が、学生ならびに教官に対して実施されました。今後、JACME からの指摘事項に対応するために、本アンケート結果などを参考にしながら、カリキュラム改訂に向けて準備を進めております。

本委員会委員のみならず皆様からのご意見も広く求めていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第 1 回 カリキュラム委員会

日時：令和 6 年 4 月 3 日（水）17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 令和 6 年度カリキュラム委員会の学生委員について
2. 令和 6 年度 2 学年テュートリアル担当教室について
3. 令和 6 年度の地域医療講義について
4. 令和 5 年度労働法教育法講義の報告と令和 6 年度の講義について

第 2 回 カリキュラム委員会

日時：令和 6 年 6 月 5 日（水）17:00～

場所：Zoom 会議

議事：

1. 令和 6 年度カリキュラム委員会の学生委員について（1 学年追加）

2. 令和 4 年度モデルコアカリキュラムに対応した講義改革について
3. 臨床実習Ⅱの新たなプログラムについて
4. 令和 5 年度労働法教育法講義の報告と令和 6 年度の講義について

第 3 回 カリキュラム委員会

日時: 令和 6 年 10 月 2 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (Generalism: GE) 教育について
2. 11 月からの串本実習について
3. 令和 7 年度の医学概論講義について
4. 令和 6 年度の労働法教育について
5. 令和 7 年度のカリキュラム日程について
6. 令和 7 年度の教務日程について

第 4 回 カリキュラム委員会

日時: 令和 6 年 12 月 4 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和 7 年度 (2025 年度) シラバスについて
2. シラバス作成に向けた教育アウトカムとディプロマポリシーの番号振り分けについて
3. 令和 7 年度 (2025 年度) 医学英語日程について
4. 令和 7 年度 (2025 年度) 時間割作成について
5. 令和 7 年度 (2025 年度) 医学概論講義シリーズについて
6. 看護学部での授業について
7. カリキュラム改善に関するアンケートについて

第 5 回 カリキュラム委員会

日時: 令和 7 年 2 月 5 日 (水) 16:45～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和 7 年度 (2025 年度) シラバス点検担当者
2. 令和 7 年度 (2025 年度) 1 学年時間割の変更について
3. カリキュラム改善に関するアンケート結果について
4. 令和7年度 (2025年度) カリキュラム委員会日程

[委員会報告]

臨床実習委員会

臨床実習委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

本年度の一大イベントは何と言っても JACME 第 2 巡目の受審でした。臨床実習委員会では受審に向けて CC-EPOC のさらなる整備、重要な診療科における mini-CEX を含む WpBA の着実な導入に注力致しました。JACME 受審で印象的だったのは、審査の先生方がシラバスなどに記載された内容が現場で「実質化」されているかを、しっかりと観察されていたことでした。文字通り「診療参加型実習」であるか、そして、「Workplace」で評価しているかを問われているのだと実感しました。臨床実習の教育アウトカムは一人の指導者によって達成できるものではありません。学生たちが臨床実習前とは異なった存在へと成長できるように、近畿大学医学部の教職員一丸となって取り組みたいと考えています。

第 1 回 臨床実習委員会

日時: 令和 6 年 5 月 1 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 臨床実習改革ワーキングについて
2. WpBA のアンケート結果について
3. CC-EPOC の入力状況
4. 教育連携病院への臨床実習連携に関するアンケートについて
5. 7 月 29 日からの臨床実習レビューについて
6. 海外派遣プログラムにおける単位互換について
7. あなたのひとことについて

第 2 回 臨床実習委員会

日時: 令和 6 年 7 月 3 日 (水) 16:30～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 11 月からの臨床実習シラバスと臨床実習評価の教育アウトカム表示について
2. 学生用電子カルテ記載のお願い
3. 臨床実習 II 教育連携病院からの学生の実習態度について
4. 2024 年 12 月からの臨床実習 II における教育連携病院実習について
5. CC-EPOC 入力状況報告
6. 臨床総論 II 実習の時間割について
7. 7 月 29 日 (月) からの臨床実習レビューについて
8. 文部科学省補助金事業に関わる臨床実習プログラムについて

9. シミュレーションセンターにおける医療廃棄物の不適切な取り扱いについて

第 3 回 臨床実習委員会

日時: 令和 6 年 8 月 28 日 (水) 16:30～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 2024 年度 11 月以降の臨床実習シラバスと評価表・実習スケジュールについて
2. 11 月 18 日からの臨床実習レビュー (5 学年)
3. 2024 年 11 月 6 日からの臨床実習オリエンテーション・各科の説明会について
4. 臨床実習 II 教育連携病院の受け入れ・割り当て状況と連携病院会議
5. 臨床実習 II における教育連携病院実習について
6. CC-EPOC 入力状況報告
7. 11 月からの CC-EPOC と臨床実習ログブックの入力方法について

第 4 回 臨床実習委員会

日時: 令和 6 年 11 月 6 日 (水) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 11 月 6 日からの臨床実習 I について
2. 10 月 22 日、10 月 23 日実施の教育連携病院会議の報告
3. 臨床実習における CC-EPOC とログブックの活用法について
4. 今後の串本実習について
5. 臨床実習改革ワーキングについて
6. 臨床実習におけるアンプロフェッショナルな学生の処遇について

第 5 回 臨床実習委員会

日時: 令和 6 年 12 月 25 日 (水) 16:30～

場所: Zoom 会議

議事:

1. CC-EPOC の動向
2. CC-EPOC「症候と病態」の項目追加について
3. 3 月の臨床実習レビュー (4-5 学年) について
4. 臨床実習 I、11-12 月の評価 (全体) シート記入のお願い

第 6 回 臨床実習委員会

日時: 令和 7 年 3 月 25 日 (水) 16:30～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 今後の臨床実習レビューについて

2. 臨床実習Ⅱ実習先(第4-6クール)について
3. CC-EPOCについて
4. 臨床実習生の欠席の取り扱いについて
5. 2025年度からの串本地域実習について
6. 令和7(2025)年度臨床実習委員会日程

[委員会報告]

医学部 FD 委員会

医学部 FD 委員長

医学部教育センター 教授

三井 良之

FD 委員会は年度末に 1 度だけ開催される。令和 6 年度の定期会議は 2025 (令和 7) 年 3 月 11 日 (火) に開催された。本年度は、FD 研修会受講状況の報告や来年度の予定とともに、JACME からの指摘事項である「教員の活動と能力開発に関する方針の策定」について議論された。

第 1 回 FD 委員会

日時: 令和 7 年 3 月 11 日 (火) 15:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和 6 年度のFD 研修会受講状況
2. 令和 7 年度のFD 研修会日程と演題について
3. FD に関する JACME からの指摘事項

[委員会報告]

地域医療教育委員会

地域医療教育委員長

小児科学 主任教授

杉本 圭相

近畿大学医学部では、2010 年度から地域枠入学制度が導入され、医師偏在地域の課題解決に継続的に寄与している。一方で、途中辞退となる学生も一定数存在するため、地域枠学生、および地域枠以外の学生における地域医療教育への一層の理解と参画が求められる。

そのため、本委員会では、本学医学部学生に対し、① 各自治体から地域医療の現状、医師の必要性、現在活躍している医師の紹介などを通じた大学内外の組織や地域との連携強化、② 地域枠の卒業生より地域医療の実践を講義してもらい、将来の自分を想起することを促進させるような将来のロールモデルの形成、③ 診療所における実習などにより、地域の中での診療所の役割を学び、住民対象の健康教育に参加することで予防医学の概念を学ぶ多職種連携教育を推進するため活動している。

1. 委員会

開催なし

2. 地域医療教育の実施

地域枠学生への継続的な関わりを強化するとともに、地域枠以外の学生も含めた地域医療の推進を目的とし、令和 6 年度カリキュラムにて下記地域医療教育を実施。

1 年生 オリエンテーション (静岡県)、地域包括ケア実習

2 年生 地域包括ケア (近畿厚生局)、医師会の役割・地域医療 (大阪府医師会)

3 年生 地域医療講義

4 年生 串本実習 (和歌山県)

5 年生 串本実習 (和歌山県)、近大奈良病院実習 (奈良県)

6 年生 地域医療実習 (静岡県)

3. その他

全国医学部長病院長会議 (AJMC)「地域枠制度についての意見交換会」

日時: 令和 6 年 2 月 24 日 (土) 11:00 ~ 17:00

場所: TKP ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 33A

テーマA 「不同意離脱」の判断基準とその意思決定プロセスについて(厚生労働省が例示した 10 項目への対応を含む)

テーマB 離脱防止のために取り組んでいること(結婚協定など)

テーマC 離脱の理由について

上記 3 つのテーマについてグループワークを行い、討議、グループ発表を行った。

[委員会報告]

学生生活委員会

学生生活委員長

精神医学 主任教授

橋本 衛

新型コロナ感染対策の緩和とともに、医学部生の学生生活も概ねコロナ前の状況に戻ってきました。クラブ活動では、夏季西医体が川崎医科大学の主管で開催され、近畿大学からも多くの学生が参加いたしました。金剛際は移転のため狭山キャンパスでの実施は今年度が最後となりましたが、2000 名もの参加者があり、盛況にフィナーレを飾ることができました。春と秋の保護者懇談会は、学務課の尽力もあり、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催いたしました。ハイブリッド開催については保護者からも好評であり、今後も継続する予定です。

学生のメンタル面へのサポートとして、長らく不在であった心理士を保健管理室に復活し、学生の心理相談を再開しました。またメンタル面に不調のある学生を早期発見（二次予防）するため、前年度は新入生だけに実施していた UPI (University Personality Inventory) を、全学年に対して実施しました。

学修支援については、医学部生の研究活動を奨励することを目的として、医学部生が学会発表のため学会に参加する際の一部経費を補助する制度を本年度より開始しました。早速4名の学生が本制度を利用して学会発表を行いました。海外派遣プログラムについては、今年度も 9 名の学生をイギリス、タイ、アラブ首長国連邦の各病院に派遣する予定です。

学生生活委員会は、医学部生が充実した学生生活を送ることができるように、今後も活動してまいります。

第 1 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 4 月 9 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和 6 年度保護者懇談会(春)の実施について
2. クラブ部長の交代について
3. クラブ活動予算について
4. 令和 6 年度入学式出演に係る公欠の取扱いについて
5. その他報告事項

第 2 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 5 月 7 日 (火) 17:30～

場所: Zoom 会議

議事:

1. クラブ部長の変更について
2. その他報告事項: 学生 2 名から学会参加報告があった。

第 3 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 6 月 11 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 金剛祭テーマと実施について
2. IFMSA-Japan 留学生の受け入れについて
3. その他報告事項

第 4 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 7 月 9 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. KINDAI 病院奨励賞選考について
2. クラブハウス前への駐車に関する近隣住民の意見について
3. 令和 6 年度海外派遣研修プログラムの実施について
4. IFMSA 学生の受け入れについて
5. その他報告事項: 学生 1 名から学会参加報告があった。

第 5 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 9 月 3 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 金剛祭の実施と企画、予算案について
2. 保護者懇談会(秋)の実施について
3. 謝恩会の実施について
4. その他報告事項

第 6 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 10 月 8 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 医学部生の車通学に関する違反について
2. 令和 6 年度謝恩会の開催について
3. その他報告事項: 学生 1 名から学会参加報告があった。

第 7 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 11 月 12 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 海外派遣プログラム実習先の追加について
2. メンター面談における学生のワクチン接種に係る案内の追加

3. その他報告事項

第 8 回 学生生活委員会

日時: 令和 6 年 12 月 10 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 新入生オリエンテーションのプログラムについて
2. 2 ～ 6 学年新年度オリエンテーションのプログラムについて
3. 3 大会登録変更について(卓球部)について
4. 海外派遣選考結果について
5. 特別指導対象学生のクラブ活動制限について
6. その他報告事項

第 9 回 学生生活委員会

日時: 令和 7 年 2 月 4 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 校友会長賞、学友会活動功労賞の候補者推薦について
2. 学生生活委員会規定の改訂について
3. 令和 7 年度メンターの人選について
4. 1 学年特別指導体制への組み入れ・解除基準について
5. 1 学年特別指導対象学生のクラブ活動の制限について
6. 成績不良学生に対するメンターの面談報告書の改訂について
7. その他報告事項

第 10 回 学生生活委員会

日時: 令和 7 年 3 月 4 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 令和7年度保護者懇談会の実施について
2. クラブ部長の交代について
3. その他報告事項

[委員会報告]

学修支援委員会

学修支援委員長

循環器内科学 教授

栗田 隆志

I. 低学年 (1-2 年生) への対応

1. 教育専門家の招聘とアンケート調査の実施

教育専門家 (社会構想大学院大学 松本朱実先生) を学修支援委員会に招聘し、特別指導教員会議、学修支援委員会に出席いただくこととなった。また、同先生指導の下、アンケート調査票を作成し、1-2 年生全員 (留年生含む) の学修に関する姿勢、意欲、得手不得手な科目などを調査し、指導に役立てることとした。学生にとっても自身による振り返りにより、達成度の確認ができるシステムを目指している。

2. 成績不振者の抽出方法と特別指導教員

① 1 学年

➤ 留年生への対応

- 前年度 3 月の学修支援委員の会議にて留年生全員について 4 月から特別指導体制に組み入れることを確認する。
- 特別指導に該当する学生をメンター制度から特別指導体制に変更する旨を学生生活委員会に伝える。同委員会との合同会議は不要とし、報告のみとする。

➤ 新 1 年生への対応 (第 1 回選出作業)

- 入学試験の方式や成績は入学後の成績予測に利用できないというデータがあるため、新 1 年生における成績不振学生抽出は入学後の状況を観察して決定する。
- 入試時の科学選択 (生物履修の有無など)、入学後の小テスト、レポート作成、出席率などからハイリスク学生を 5 月末までに抽出する。
- 特別指導教員会議において新規に該当学生を 5 名程度抽出し、学生生活委員会にメンター制度からの移動を報告する。

➤ 第 2 回抽出作業 (非留年生)

- 8 月下旬に前期科目の成績が明らかになるため、それに基づいて 2 回目の成績不振者の選定作業 (追加 5 名程度) を行い、学修支援委員会管理とする。
- 上記の内容を学生生活委員に報告する。

➤ 第 2 回目までの新規追加学生は合計 10 名程度とする。

➤ 特別指導教員の割り当ては学年主任 (松田教授) に一任し、原則として、教員一人に対して最大、学生 2 名を割り当てとする。

➤ 2025 年度から特別指導体制組み入れ学生に関してはクラブ活動の制限を設ける必要があるとされた。この場合、組み入れと離脱の基準を明確にすべきと

の意見があり、2025 年 1 月末現在、議論中である。2025 年 3 月までに結論を出し、制限を設ける場合は事前に学生と各部活のキャプテンへ通達する。

② 2 学年

- 留年生への対応
 - 前年度 3 月の学修支援委員の会議にて過去の留年経験者全員 (1 年次留年含む) を 4 月から特別指導体制に組み入れることを確認する。
 - 前年度 (1 年次) の指導教員から 2 年次の教員への申し送りを行う。
 - 特別指導に該当する学生をメンター制度から特別指導体制に変更する旨を学生生活委員会に伝える。同委員会との合同会議は不要。
- 新 2 年生 (留年非経験者) への対応 (第 1 回選出作業)
 - 1 年次、特別指導体制管理で 5 月に行われる生化学、分子生物学試験の双方を不合格となり、かつ、生化学の成績が不振のものについて特別指導体制へ移行する。
 - 5 月に行われる生化学、分子生物学試験の双方を不合格となり、かつ、生化学の成績が不振のものについて特別指導体制へ移行する。
 - 特別指導に該当する学生をメンター制度から特別指導体制に移行する旨を学生生活委員会に伝える。同委員会との合同会議は不要。
- 新 2 年生 (留年非経験者) への対応 (第 2 回選出作業)
 - 7 月中旬に機能 1 の試験結果が明らかになるため、これを基に第 2 回目の成績不振の選定作業 (追加 5 名程度) を行い、特別指導体制管理とする。
 - 上記内容を学生生活委員に通達する。
- 第 2 回目までの新規追加学生は合計 10 名程度とする。
- 特別指導教員の割り当ては学年主任に一任し、原則として、教員一人に対して最大、学生 2 名を割り当てとする。
- 学生の成績が著しく向上した場合は学生と指導教員の意見を基に特別指導体制から離脱し、メンター制度への変更も可能である。

③ 特別指導体制の担当教員 (指導教員)

- 指導教員が担当する学生は原則として最大 2 名とする。
- 指導教員は 2 学年の授業を中心に実施している教員とする。
- 指導教員は指導を行う過程で、生活面やメンタル面でのサポートが必要と判断した場合は学習支援委員長に連絡を取り、学生生活委員との協議を行う。

II. 3 年生

1. 1-2 年次に学修支援委員会管理であった新 3 年生については学生生活委員にこれまでの指導内容などの情報を伝える。学修支援委員はメンターにこれらの学生については重点的な指導を行うよう依頼する (学生生活委員会と情報共有)。
2. 夏休みに入る前に成績不振者 (本試験不合格科目多数者) に関してメンターに連絡し、面談を依頼する。

3. 2025 年度から、成績不振学生に関してメンターとの面談を促進するために Slack の 3 学年メンター連絡用チャンネルを使用して学修支援委員が作成した面談内容を記載するスプレッドシートを提供し、活動報告を依頼する。
4. 適宜、学修支援委員長が学生生活委員ならびに同小委員会に出席し、メンターによる活動報告を要求する。
5. CBT 全員合格を目標に、4 月から CBT ビデオ講座を全員に提供し、勉強のサポートを行う。
6. 2024 年度から総合試験問題対策講義を行うこととした。各診療科に CBT 模試 (MEC 作成) を配布し、その解説を依頼している。来年度は本年度に各診療科から提出された問題の解説を行う予定。

III. 4 年生

1. 8 月に実施される CBT・OSCE の全員合格を目標とする。
2. 4 月 6 月に MEC による CBT 模試を行い、成績不振者の割り出しと苦手科目の割り出しを行う。
3. 特に成績が振るわない下位 10-20 名については MEC から面談を行なってもらう。
4. CBT 対策講義の企画立案と実施 (20 年度から開始)「ここが変だよ QB」など 7 コマの授業
5. CBT 不合格の学生が発生した場合は留年が決定し、11 月から翌年 3 月まで MEC の補講プログラム (学内で施行) に移行するが、2022-2023 年度は多くの学生が登校せず、モチベーションを維持する工夫が必要であると判断された。それに対する対策として、補講プログラムと確認テストへの出席率が 2/3 以上であることが、4 年次で合格した科目試験免除の要件の一部とすることが教授会で決定された。今後は該当学生が 4 月から CBT 対策を行う上でのサポートについて協議したい。
6. 学修支援委員会が IR 委員会に依頼し、CBT 得点とその後の学生の進級、卒業、国試合格率の関連が解析された。その結果、CBT の得点下位 25% が滞りなく国試合格できる可能性は 50% 強であることが判明した。また、2024 年度の CBT IRT の中央値が著しく低下しており、極めて憂慮すべき事態であることが示された。このデータは実習中の各診療科を通じて学生に到達された。加えて、下位 20 位の学生については個々の学生に関する今後の予測進級率などを具体的に示したメッセージを配布した。
7. 4 年生は CBT に合格すると進級が確定し、翌年度の 5 月まで重要な試験がなく、CBT 終了後の危機感が全くない。11 月から開始される臨床実習の初期にローテーションする診療科に CBT IRT 値とその後の進級率との関連を学生に提示してもらうよう依頼した。

IV. 5 年生

1. 成績不振学生選定方法
 - 8 月に MEC 作成の内科実力テストを施行し、下位 30 名を S クラスとする。

2. S クラス対策

- 内科実力試験の結果を解析し、苦手科目と科目内の領域を明らかにする。
- 9 月からの S クラスの前半に内科系講義を集中させ、講師には試験問題と S クラス学生の苦手とする領域を周知し、弱点克服を目指した講義とする。
- S クラスの受講を学生にとって魅力的なものとする努力を今後も続ける必要がある。

V. 6 年生

1. 成績不振学生選定方法

- 1 月の総合試験本試験下位 30 名を S クラスとする。

2. S クラス対策

- 11 月の TECOM 試験、1 月の総合試験の結果から S クラス学生の苦手科目と科目内の領域を明らかにする。
- S クラス講師には苦手科目と領域を周知し、弱点克服と称した S クラス講義を企画する。
- 2023 年度の 6 年生は、特に下位 10 名について、MEC の個人指導を行うこととした。
- 5 年生と同様に S クラスを学生にとって魅力あるものにするよう努力を続ける。

VI. 学修支援委員会

2 か月毎に 1-2 年合同の学修支援委員会を開催し、情報の共有と学修支援活動の進捗状況を確認する。討議内容は下記を中心とする。

① 事例の共有と問題点の検討

② 有効な指導方法の共有 (教育専門家の招聘)

③ 学修支援の効果判定

➤ 1-2 年生

- 定期試験の成績評価
- 特別指導該当学生割り出し方法の妥当性評価
- 年度末における特別指導対象学生の進級率と成績順位の評価

➤ 3-4 年生

- CBT、OSCE の合格率の評価

➤ 5-6 年生

- S クラス対象者の進級率と成績順位 (6 年生は国家試験合格率) の評価
- S クラス対象へのアンケート調査
- 試験の成績推移の評価

④ 支援システムの改善

- 上記の効果判定に基づいて、適宜、学修支援方法などの改革を不断に行う
- 学修支援委員会の活動指針の策定と改訂
- 教育の専門家の意見と指導による改革

VII. その他

1. ユニット講義と S クラス講義での学生教員評価に依拠して Best teacher 賞と Good Teacher 賞に該当する教員の推薦。
2. 2 学年の特別指導教員から Goode support teacher 賞の推薦
3. 医学部保護者懇談会への出席と学修支援委員会報告 (年 2 回)

[委員会報告]

医学基盤教育委員会

医学基盤教育委員長

医学基盤教育部門 教授

松田 学

本年度は2回の医学基盤教育委員会(1回は Slack 会議)が開催され、令和 7 年度キャンパス移転に対応するための 1 学年教養・語学・基礎教育の教務日程の調整および教員の退職・欠員に柔軟に対応するための 1 学年教養・語学科目の運営について話し合われた。また、新キャンパスで実施される令和 8 年度のカリキュラムに関して、方向性についての意見交換がなされた。

第 1 回 医学基盤教育委員会

日時: 令和 6 年 7 月 2 日 (火) 17:00～

場所: Zoom 会議

議事:

1. 今年度のこれまでの 1 学年の授業運営
2. 高校理科の履修に関する入学時アンケート結果
3. 入学時 TOEFL 試験実施と結果
4. 選択科目の選択状況
5. 学修支援対応__特別指導体制
6. 今年度 1 学年定期試験の運営・サポート体制
7. 来年度共通教養科目の担当について
8. 移転に伴う来年度授業日程の変更について(経過報告)
9. 再来年度のカリキュラム改善の方向性について
10. 来年度オンデマンド科目の扱い

第 2 回 医学基盤教育委員会

日時: 令和 7 年 1 月 30 日 (木)

場所: Slack 会議

議事:

1. 令和 7 年度 1 学年の時間割変更について
2. 令和 7 年度 1 学年の科目責任者およびサポート教員の変更について

[委員会報告]

医学部 IR 委員会

医学部 IR 委員長

公衆衛生学 主任教授

今野 弘規

医学部 IR 委員会の活動

A. 教育アウトカム評価に関する検証

- (1) 総合評価作成のための方法の提案
- (2) 作成された教育アウトカム総合評価の妥当性の検証
 - ① 教育アウトカム総合評価の比率作成
 - ② 学年別にみた各教育アウトカム総合評価の基本集計
平均値、科目試験平均値との相関、教育アウトカム間の相関
地域枠と非地域枠との比較
- (3) IR による評価とDREEM 調査による自己評価との関連分析

以上の (1) - (3) を教務委員会および教授会で報告、(2) を医学部教育評価委員会で報告

B. 教学に関するアンケート統括の手順改訂

- (1) 医学部 IR 委員会の審議を経ない医学部長判断のケースも、申請者を通じて必要に応じて医学部倫理委員会の審査・許可を得ることに変更
 - (2) 医学部 IR 委員会の審査対象外のケースの手順追加
- 以上の (1)、(2) を医学部倫理審査委員会および医学部長に報告

C. 教学データの利活用と倫理に関する検討

教学データに関する分析の目的や利用が見込まれるデータ等に関する説明等を記載したホームページ掲載用の文書案作成、並びに医学部倫理委員会からの意見聴取

D. JACME (日本医学教育評価機構) による分野別認証評価

領域 7(教育プログラム評価)の自己点検評価書の執筆、並びに実地調査における領域別検討会議の対応

E. 教学データ調査計画

アンケート調査、教学データ調査 (試験成績、教育アウトカム) に関する今後の調査計画の作成、並びに教務委員会および教授会における報告

F. カリキュラム改訂に向けたアンケート調査

学生、教員を対象にしたカリキュラムおよび授業に関するアンケート作成、Google Form による実施、集計、並びにカリキュラム委員会および教授会におけるカリキュラムに関するアンケート集計結果の報告

G. 委員会規程の改定、情報取り扱い規則の改定

委員の一部交代 (IR 室専任教員を含む)

医学部 IR 室データ管理のセキュリティ強化

H. 教学に関するアンケートの審議

医学生における Social Media 利用の実態調査 (皮膚科 中嶋千紗)

(依頼日 2025 年 1 月 28 日)...審議対象外

[教育関連学術業績]

論文

Yukihiro Ikeda, Yutaka Hirano (2024). Impact of Professionalism Education on Empathy among First-Year Medical Students. *Journal of Medical Education* 28: 136-146

[教育関連学術業績]

著書

Clark, P. M., & Derrah, R. (2024). The Experiences of Foreign Scholars in Japan: Identity, Positionality, and Communities of Practice. In *International Faculty in East Asian Higher Education* (pp. 130-154). Routledge.
<https://doi.org/10.4324/9781032686004>

浅島誠ほか(松田学:分担執筆・編集)高等学校教科書「生物」東京書籍 (2024)

[教育関連学術業績]

学会発表

第 56 回日本医学教育学会 2024 年 8 月 9 日～10 日 東京都

『臨床実習におけるCC-EPOCを定着させるための本学での取り組み 第2報』
Efforts to establish CC-EPOC in clinical practice for clinical clerkship trainee
近畿大学医学部 医学部教育センター
三井良之、池田行宏、藤田貢、平野豊、有馬秀二、梶博史、松村到

【目的】

近畿大学医学部では令和4年度11月から臨床実習学生の指導、評価の目的でCC-EPOCを導入し、推進の取り組みを行い、55回大会でも報告した。今回は1年間の成果をまとめ、有効利用のために実施したさらなる取り組みについて報告する。

【方法】

CC-EPOC有効活用のため、①CC-EPOCに関するFDを実施する。②症例把握のため、症候病態の入力を最優先するが、Mini-CEXや診療科評価も入力する。③CC-EPOCでの評価は形成的評価にとどめ、従来の総括的評価は継続する。④隔月に開催される臨床実習委員会で入力状況が良好な学生を表彰する、⑤教育連携病院にも出張FDを実施して、症候・病態の入力を促す、等の取り組みを行った。臨床実習Ⅰ(全科をローテートする方式)を履修している4学年110名の入力状況を調査した。同学年の臨床実習Ⅱ(4週間以上、同一診療科で実習を行う方式)での入力状況についても調査を行った。

【結果】

臨床実習Ⅰを履修している4学年110名の1年間の登録件数は、延べ3193件であり、学生1名あたり平均29件であった。最多入力187件、最小入力数は2件であった。症候・病態別には運動麻痺・筋力低下が205件、次いで発熱160件、呼吸困難155件であり、最小は心停止の4件であった。臨床実習Ⅱについては、12週間3コースの間に延べ711件であり、学生1名あたり平均6件であった。最多入力154件、最小入力数は0件であった。症候・病態別には食思(欲)不振が41件、次いで体重減少が35件、全身倦怠感が33件であり、最小は月経異常の0件であった。Mini-CEXなどWpBAの入力は延べ64件であった。CC-EPOCは、学生教員双方のコミュニケーションツールとして定着しつつあり、今後アウトカム評価や臨床技能の経験にも活用して行く予定である。

第 56 回日本医学教育学会 2024 年 8 月 9 日～10 日 東京都

『初年度プロフェッショナリズム教育は学生のどのような共感する力を高めるか』

What type of empathy does first-year professionalism education enhance in students?

近畿大学医学部 医学部教育センター

池田行宏、三井良之、藤田貢、平野豊、有馬秀二、梶博史、松村到

【背景・目的】

初年次プロフェッショナリズム教育の目的の 1 つとして「共感する力」の向上がある。共感する力を測定する手法は様々なものが考えられているが、多くは海外で考案された指標を日本語に翻訳しているため、日本人の感覚や表現に沿っていない。そこで、この報告では日本で考案された指標を用いて、初年次プロフェッショナリズム教育が、学生のどのような共感する力を向上させるのかを検討した。

【方法】

2023 年度の 1 年生プロフェッショナリズムコース受講者に対し、「多次元共感性尺度」を用い、受講前後でどのような共感力が向上したか比較した。

【結果・考察】

受講前後のデータが揃っている 113 名を分析対象とした。共感する力の 5 領域のうち、4 領域(被影響性、他者指向的反応、想像性、視点取得)において、受講前後で統計的に有意に共感する力の向上が見られた。変化のみられなかった 1 領域は自己指向的反応であった。個別の項目では「物事を、まわりの人の影響を受けずに自分一人で決めるのが苦手だ」、「悩んでいる友達がいても、その悩みを分かち合うことができない」、「まわりに困っている人がいると、その人の問題が早く解決するといいなあと思う」、「自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているのかをわかろうとする」、「他人が失敗しても同情することはない」、「苦しい立場に追い込まれた人を見ると、それが自分の身に起こったことでなくてよかったと心の中で思う」、「人が頑張っているのを見たり聞いたりすると、自分には関係なくても応援したくなる」、「人の話を聞くときは、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞く」といった項目において、受講後にスコアが向上していた。このように新生入生当時、自己指向的態度が強かった学生が、他者指向的な態度も身につけていくことで、プロフェッショナリズム教育が学生の共感する力の向上に寄与していることは確認されたが、どのプログラムが一番効果的か、受講1年後はどのような影響があるのか、といったことはまだ不明である。今後はこれらの学生をフォローアップし、長期的な影響についても検討していく。

第 56 回日本医学教育学会 2024 年 8 月 9 日～10 日 東京都

『本学医学教育における教育アウトカムと学修評価方法との適合性に関する包括的検討』

A Comprehensive Alignment Examination between Educational Outcomes and Learning Assessment Methods

近畿大学医学部 医学部教育センター

藤田貢、三井良之、池田行宏、平野豊、有馬秀二、梶博史、松村到

【背景・目的】

医学教育における学修評価は、教育アウトカムを達成しているかを測定するための核心的なプロセスであるにもかかわらず、実際の教育現場においては教育アウトカムと学修評価方法とは必ずしも適合していない。そこで今回は本学における現状把握と改善方略を検討するため、医学教育全般にわたる学修評価方法と教育アウトカムの適合性について包括的調査を実施した。

【方法】

本学では 2023 年度には 10 の医学教育アウトカムを設定している。そこで本研究では、本学医学部教育シラバスに登録されている科目責任者を対象に、各科目がそれぞれの医学教育アウトカムに対して実施している学修評価方法を、ウェブアンケートシステム経由で調査した。収集されたデータに対してはカリキュラムマッピング的解析を実施した。

【結果】

臨床実習前教育 46 科目、臨床実習 26 科目より回答を得た。調査結果から、ユニット試験 (MCQ、記述)、PBL (グループワーク、プロダクト、発表)、TBL (グループワーク、プロダクト、発表、ピア評価)、360 度評価など、多様な学修評価方法が用いられていることが明らかとなった。しかしながらこれらの学修評価方法の中には、特定の教育アウトカムに対して部分的にしか対応していないものも複数存在していた。例としては、技能や態度が評価されるべきアウトカムで MCQ や記述試験が重視されるケースも散見され、教育アウトカムと学修評価方法との適合性における潜在的問題が露見した。

【考察】

本調査により、今後教育アウトカムと学修評価方法との適合性を高めていくためには、(1) 学修評価方法に関する教育者の研修とサポート、(2) 学修評価方法の多様化、(3) 教育アウトカムに沿った学修評価方法の明確化、(4) 継続的な教育プログラムの評価と改善、等が必要であることが示唆された。

アートミーツケア学会 2024 年度総会 2024 年 12 月 14 日～15 日 福岡市

『ホスピタルアート受講が学生の共感力、プロフェッショナリズム教育に及ぼす効果
—2年間の追跡調査結果—』

近畿大学医学部 池田 行宏

近畿大学文芸学部 森口ゆたか

近畿大学医学部 三井良之

【背景・目的】

「ビジュアルアート教育」は「観察・診断力の向上」「共感力」「コミュニケーション」「ウェルネス」「感受性」といった医師に必要な能力を涵養するとされている¹⁾。医師の共感する力を測定にはJefferson Scale of physician Empathyが80か国以上で使用されている。学生に向けてはStudent version(Jefferson Scale of Empathy-Student Version: JSES)も開発されている。そこで今回の報告では、本邦初となる「ホスピタルアート」を冠した授業を実施し、JSESに加えて、日本で開発された、多次元共感性尺度を用いて、学生のどのような共感力に影響があるか、また、授業終了後どのように影響するか検証することを目的とした。

【方法】

2022 年度医学部 1 学年の学生で、「ホスピタルアートによる患者ケア」という授業を実施。1 学年 116 名(内、ホスピタルアート受講者 22 名)に、多次元共感性尺度を用いて、ホスピタルアート受講がどのような共感力に影響があるか検討した。また、JSESを用いて入学時、9 月に 2 回、1 年後に測定、共感力にどのような変化があるか追跡調査した。

【結果・考察】

多次元共感性尺度では「相手を批判するときは、相手の立場を考えることができない。」「人が頑張っているのを見たり聞いたりすると、自分には関係なくても応援したくなる。」「他人の感情に流されてしまうことはない。」といった項目で、ホスピタルアート受講者のスコアが高かった。

JSESは 1 学年時の測定 3 回のすべてにおいて、統計的有意差は認められなかったものの、ホスピタルアート受講者のスコアが高かった。特に 9 月、プロフェッショナリズム授業開始時の両者の差は開いており、ホスピタルアートの受講や経験が、プロフェッショナリズムの授業を受講する際の心構え(レディネス)に好影響があることが示された。さらに 1 年後、ホスピタルアート受講者のスコアの上昇が、非受講者に比べて大きかった。このことはホスピタルアート受講が、1 年後の共感力にも良い影響を与えていることが窺えた。

【参考文献】

1) Mukunda N, et al. Medical Education ONLINE, 2019; 24

International Conference on Social Sciences Research & Business
Management 2025
February 10, 2025, Bangkok Thailand

『Foreign Scholars in Japan: Using Communities of Practice as a Theoretical Framework』

近畿大学医学部 Phillip M. Clark

近畿大学合社会学部 教養・基礎教育部門 Richard H. Derrah

【Background and purpose】

The focus of this study was Japan, in particular the higher education system. Long considered a fairly culturally homogenous country, Japan is by no means entirely homogenous, and in the 21st century Japan continues to see an increase in non-Japanese residents. Currently in Japan in higher education non-Japanese make up about 4 to 5% of full-time faculty nationwide, and about 10 percent of part-time faculty. Ours was a qualitative study focusing on non-Japanese instructors in higher education. What are their perspectives, experiences, and what can we learn from these about current systems and practices?

【Methods】

The presentation consisted of three parts: An overview, a discussion of our research paradigm of Critical Realism, and a breakdown of the CoP framework as well as a brief description of our methodologies

【Conclusion】

The presentation had 11 attendees from various countries. There was a fairly strict time limitation on presenting but we were able to convey the basic points of our methodology succinctly and clearly. We did not explore our participants or results, something we are saving for future presentations.

[教育関連学術業績]

講演・ワークショップ

松田学

「OSAKA未来共創ドラフト会議」(大阪中央ロータリークラブ主催)

*チーム監督として参加

ホテルグランヴィア大阪 (2024 年 5 月 11 日)

博多義之、岡田清孝、近畿大学医学部 1 学年 4 名

『夏休み理科実験教室 ジュース (果物) の DNA を取り出してみよう!』

令和 6 年度大阪狭山市立公民館 まなびーば sayama 2024

対象: 中学生 30 名

大阪狭山市立公民館 (2024 年 7 月 30 日)

朴雅美、博多義之、松田学

『脳 (のう) のクセがスゴい!』

近畿大学医学部オープンキャンパス模擬講義

近畿大学大阪狭山キャンパス (2024 年 8 月 4 日)

松田学、博多義之、朴雅美

『「固まる」を科学する』

真和中学校(熊本県熊本市)学校見学模擬講義

近畿大学医学部大阪狭山キャンパス (2024 年 10 月 25 日)

博多義之、岡田清孝、近畿大学医学部1学年1名、医学部 2 学年 3 名

「理科おもしろ実験教室 インクのペーパークロマトグラフィー」

令和 6 年度大阪狭山市立第七小学校

対象: 小学 6 年生 90 名

大阪狭山市立第七小学校 (2024 年 11 月 5 日)

松田学、博多義之、朴雅美

『バーチャルスライドで観察するヒト血球』

近畿大学附属新宮中学校学校見学模擬講義

近畿大学医学部大阪狭山キャンパス (2024 年 12 月 5 日)

[教育関連学術業績]

その他

池田行宏

教育関連病院出張FD:2 回

教育連携病院におけるCC-EPOCの使用

池田行宏

2024 年度 医学部第 2 回 FD研修会

学修を促進するためのポートフォリオ評価とその活用

池田行宏

2024 年度 医学部第 5 回 FD研修会

学生の主体的学びを促進するCC EPOCとログブックの活用

池田行宏

2024 年度 医学部第 6 回 FD研修会

学生の主体性を育むシラバスデザイン

編集後記

医学部教育センター年報 編集担当

医学部教育センター 准教授

藤田 貢

令和 6 年度の教育センターではさまざまな変化やチャレンジがありました。まず医学部教育センター事務課が正式に設置され、井上純子課長と松枝恵美さんがスタッフとして参画してくださるようになりました。その後 IR 部門専任教員の藤田裕規先生が退職され、富士佳弘先生が後任として赴任されました。マンパワーを得た教育センターがさらに活発化していくことが期待されます。

これらを追い風として、9月に日本医学教育評価機構 (JACME) 2 巡目審査を受審しました。医学部としての大きな難所でありましたが、無事に受審を終え、年度末には無事に認定される運びとなりました。

医学教育は、国際認証基準および国内基準を満たすことが求められる中で、常に進化し続ける必要があります。教育センターでは、講座横断的な連携を強化しながら、これからも医学教育の質向上に努めてまいります。引き続き皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

医学部教育センター 助教授

富士 佳弘

2025 年 1 月より IR 室専任教員として着任しました富士佳弘です。前職では、急性期病院から福祉施設まで患者さんの機能回復と社会復帰のためのリハビリテーション業務に約 20 年間従事してきました。同時に、大阪大学大学院医学部医学研究科では、公衆衛生学教室にて疫学を学び、非常勤講師として大学等における学生教育や後進の育成に携わってまいりました。

昨今、教育における生成 AI の利活用や文部科学省が Society 5.0 時代に向けた DX 教育を推進していますが、IR 室では original data から見えるものを推察・解析することで客観性のある提言をおこない、教育の質の向上に向けて一翼を担います。IR 室は独立して業務に従事しますが、医学部教育センターの教員との連携は密に取り合い、本学における医学教育の質の向上のために One Team で取り組んでまいりたい所存です。

編集作業に協力させていただいたことにより、医学部教育センターは各委員会組織からなり、その Specialist の力が結集して発展してきたことがわかりました。これまでの活動を継続・発展させるといった使命感に駆られたとともに、かねてよりご尽力いただいている皆様に深謝申し上げます。